

令和7年産 コメ通信

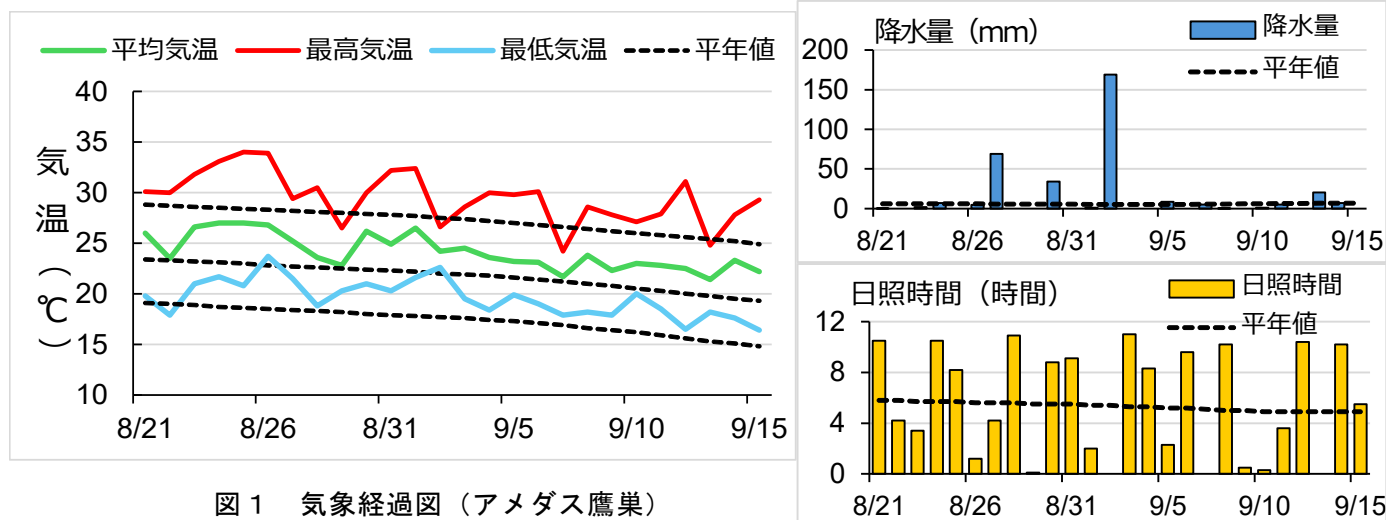
第10号（令和7年9月16日）

【発行】

北秋田地域振興局農林部農業振興普及課
（電話：0186-62-1835）

稲の黄化進む！刈り遅れに注意！

1 気象経過と生育状況



【気象経過】

- 8月5半旬以降の気温は、平年よりもやや高く推移しました。9月2日の記録的な大雨により、降水量は平年よりもかなり多くなっています。日照時間は断続的な降雨や曇天により、平年並で推移しました。
- 仙台管区气象台発表の1か月予報（9月11日発表）によると、向こう1か月の東北地方日本海側の天気は、気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並と予想されています。

【生育状況】

- 9月10日現在の生育（あきたこまち：9地点平均）は、平年と比べ、稈長と穂長がやや長く、穂数は少なくなっています。各地点とも最高分げつ期の茎数は平年よりも少なかったものの、無効分げつが少なかったため、有効茎歩合は平年より高くなりました。
- 稈長が長く、強い雨に遭遇したことから、倒伏程度が大きいほ場が見られます。定点調査ほにおける倒伏程度は、0.5（平年：0.6）と平年並となっていますが、今後の降雨によってはさらに倒伏が拡大することが予想されます。

表1 定点調査結果（9月10日）

	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	有効茎歩合 (%)
本年	84.9	18.1	445	86.6
平年	82.5	17.8	460	81.3
前年	86.9	18.2	480	80.1
平年比	103%	102%	97%	+5.3
前年比	98%	99%	93%	+6.5

※平年は過去10か年の平均値を示す。

2 刈り取り適期の判断

- 本年は出穂が早く、その後も高温傾向だったため、平年よりも成熟が早まっています。出穂後の積算気温が、早生品種で1,100℃、中生品種で1,200℃を超えると、胴割れ米が急増しますので、刈り遅れに注意してください。
- 刈り取り適期は個々のほ場条件で異なります。図2の出穂後の日数及び出穂後の積算気温による刈取適期予測を参考に、最終的には籾の黄化程度を観察し、黄化程度が90%に達した時期に刈取してください。積算気温による刈取予想（表3）によると、出穂期が7月30日であれば9月6日には950℃を超え、「あきたこまち」は適期を迎えています。

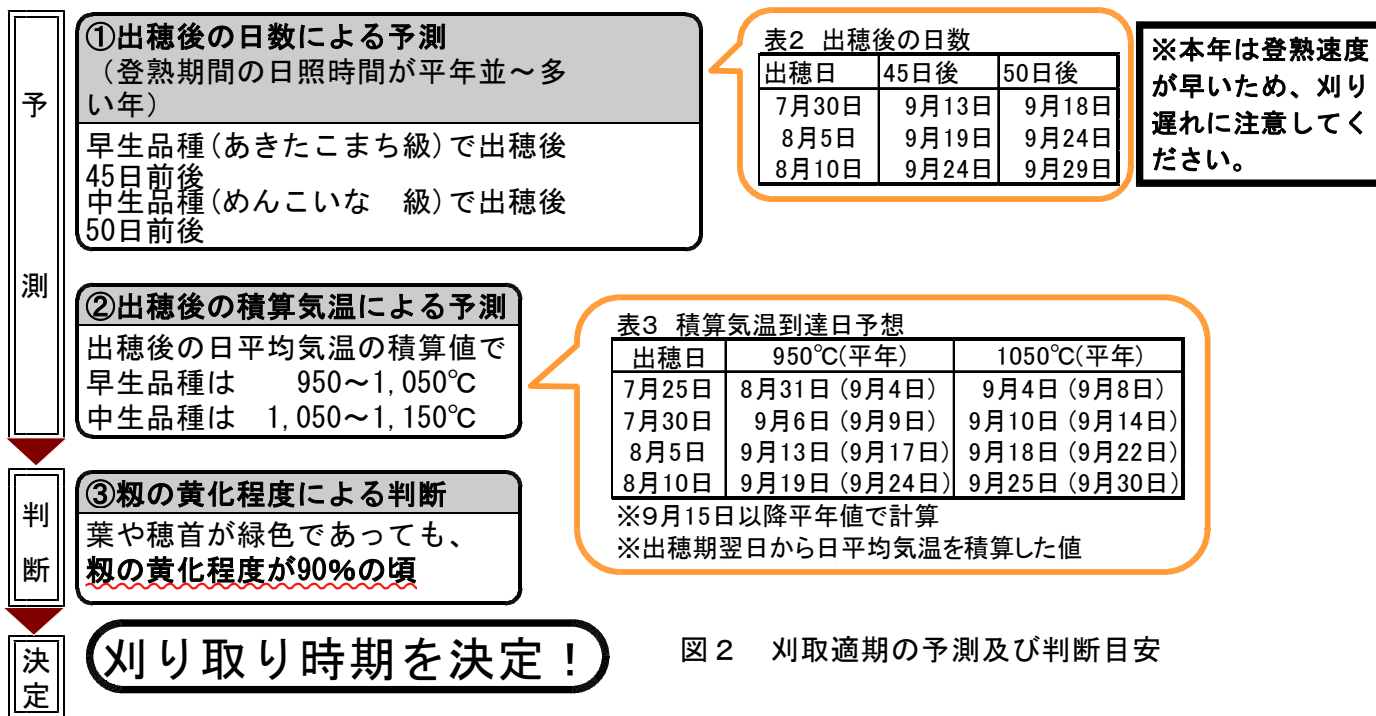


図2 刈取適期の予測及び判断目安

3 収穫作業

収穫時の籾水分は25%以下が望ましく、収穫時刻は稲体が乾燥している午前10時頃から午後5時頃とします。また泥の汚損粒が発生しないよう注意して収穫します。

4 お知らせ

＜秋の農作業安全運動 9月10日～10月20日＞

- 点検・調整時は必ずエンジンを停止してください。
- コンバインによる収穫作業は計画的に行い、長時間や夜間の作業を避けてください。
- 道路走行時は反射材を活用し、安全を確保してください。
- 作業前後は機械や安全装備の点検を励行してください。
- 軽トラック運転時のシートベルト着用、一時停止の遵守を徹底してください。
- トラクタに安全キャブ・安全フレームを装備し、シートベルトの着用を徹底してください。

＜稲わら焼き禁止期間 10月1日～11月10日＞

周辺に影響が出やすいこの期間は、全面的に稲わら焼き（籾殻含む）が禁止されています。燃焼せずに、土壌中にすき込む等、有効活用に努めましょう。

カドミウム汚染米発生を防止しましょう！！

- 「あきたこまちR」以外の品種を作付しているほ場では、出穂前後3週間の湛水管理を**必ず実施**してください。
- J A・主食集荷商業協同組合加入業者**以外**の集荷業者や消費者へ直接販売する場合は、出荷前にロット調査によるカドミウム分析を各自で実施してください。



詳しくは↑

問い合わせはJ Aまたは農業振興普及課まで～次回発行は12月中旬頃～